

富士高圧ガス工業 創立50周年にあたって 2021年12月10日

2021年7月7日当社は創立50周年を迎えました。これを機会に社歴を振り返りたいと思います。

当社は1971年7月7日富士高圧ガス(株)として創業いたしました。先代は東洋化工材に勤務し1952年より日本鋼管殿の高圧ガスの納品管理を担当し始めました。1966年頃鉄鋼各社は増産を目指し、その結果液体酸素不足になり、各社全国のメーカーから酸素を調達いたしました。先代はその先頭に立ち日本鋼管殿から大きな評価を頂き、その後絶大な信頼を得る要因となりました。その後自主独立の志をもって、日本鋼管殿の指導の下、新会社を設立し、すべてのガスメーカーの窓口として新会社を経由するようになり、会社の基礎が出来上がりました。その後日東化学殿(現三菱ケミカル)ニチアス殿、日本カーボン殿等とも取引を開始いたしました。創業当時の鉄鋼業界は1970年年間粗鋼生産量1,289万トン(世界5位)ではありましたが、急激に成長する環境にありました。京浜地区の小規模高炉を取り纏め大きな一貫製鉄所の計画が進められました。1971年12月に扇島建設工事起工式が執り行われ、1973年8月京浜地区より扇島地区への移設が開始され、当初は船舶による輸送でしたが1974年6月トンネル貫通7月には扇島大橋が竣工し陸路が完成しました。同年12月に扇島高炉の鍍入れ式が行われ、1976年11月12日一高炉の火入れ式が行われ関連工事の完成となりました。1979年7月12日に二高炉関連工事が完成します。

工事に使われたすべてのガスの供給を当社1社で行いましたが、完成後のガス需要減を想定し、ガス以外の商材を扱うという意味を込めまして1973年4月1日工業を付け加え富士高圧ガス工業(株)といたしました。1977年東商店の経営を引き継ぐことになり、得意先(I社・D社・T社等)新商材として塗装機を加えました。1980年代にはスプレーノズル(当初CC冷却用)コールドソー(当初ビレット切断)の新商材を販売開始しました。1990年頃には鉄鋼を取りまく環境が厳しさを増し、日本鋼管殿は京浜製鉄所の高炉を一本休止して合理化を進めるとともに新規事業に取り組みられました。1992年綾瀬に半導体製造工場を完成させ、当社は事業所内に事務所を開設し供給を担当いたしました。

1999年日本カーボン殿も横浜工場の閉鎖・滋賀工場への統合を実施され当社はその窓口として採用されることになり、その動きが全国の工場への売り込みに続いていきました。2000年には独SGS社と提携し、ガスクロ分析によるダイオキシンの濃度の測定事業を開始いたしました。その後新規取引先としてN社C社Q社Y社とも取引を開始いたしました。

創業当初桜本の京浜高圧の事務所2階に本社を置き、渡田小径管工場にポンベ置場・倉庫・詰所を借用してスタートしました。1979年6月現在地に本社を建設し移転いたしました。構内事務所等は小径管工場増設の為に1988年10月1日池上配送センターを開設し池上旧エネセン事務所を借用し移転いたしました。事業環境が厳しさを増し2009年4月1日両所を統合し現在に至っております。

鉄鋼事業は韓国中国の成長が著しく1996年中国が1億トン(日本9,880万トン)の大台乗せそれ以降世界一の生産を続けております。現在では8億トンになっております。リーマンショック以降金融面でも中国の存在感は増しております。日本の鉄鋼業は環境の変化に対応すべく、2003年4月JFE殿発足2012年新日鐵住金が誕生(2019年日本製鉄と改称)しました。今後も生産設備の合理的な運用を模索し続けるものと予想できます。近々JFE殿には生産体制の見直しが実施予定ですが、今まで同様知恵を出し工夫を重ね、着実に前に進みたいと思います。お客様を第一に考えていけば必ず道は続くと思っております。